

開催報告

第12回日本医療マネジメント学会学術総会

第12回日本医療マネジメント学会学術総会

会長 秦 温信

(札幌社会保険総合病院院長)



開会式 秦会長挨拶

2010年6月11日(金)、12日(土)の2日間、札幌コンベンションセンター・札幌市産業振興センターにて、第12回日本医療マネジメント学会学術総会を開催させていただきました。

今回の開催につきましては、天候も良く、札幌の一大イベントYOSAKOIソーラン祭り期間中ということもあり、全国各地からお集まりいただいた皆様には札幌の魅力を存分にお伝えできたのではないかと思います。

演題募集期間を延長しなかったにも関わらず、宮崎理事長をはじめ学会役員や会員各位のご支援・ご協力により、演題登録数は900を超え、会期当日の参加人数は3300名(事前登録2000名、当日登録1300名)と多くの方にお越しいただきました。ご参加いただきました皆様に改めて感謝申し上げます。

今回の学術総会では、現場の課題を見直しつつ医療従事者のみならず、市民や行政も一体となって「チーム医療」を推進する必要があると考え、「チームでめざすこれからの医療ー良質で安全な医療サービスの提供のためにー」をメインテーマといたしました。数多くご応募いただきました演題は、全て査読委員による適正な審査をさせていただき、その結果923演題を採用させていただきました。できるだけ皆様のご希望に添えるようプログラムを組ませていただきましたが中にはご希望セッションに添えずポスターに回っていただいた演題もございます。「これからの医療」をめざす意欲に溢れた演題をいただきましたことに感謝申し上げますと共にいずれの演題も医療現場の問題解決のためにお役に立つものと期待しております。

学術集会1日目は、招待講演の上野直人先生「EBMに基づく患者中心の医療チームマネジメント」、特別講演1 松木明知先生「空白の27時間ー歩兵第5連隊山口少佐の死と立見師団長ー」、教育講演1 浅香正博先生「北海道大学

病院の新たな挑戦」、教育講演2 小池隆夫先生「関節リウマチ：治療変革時代の到来」、教育講演3 藤堂省先生「良い医者をお社会に送り出すためにー北大病院第一外科の試みー」、会長講演、特別企画「医療崩壊から医療再生へ」、教育セミナーとして「クリティカルパスの作成と見直しの実際」と「医療安全の最近の動向とRCA分析」をおこなわれました。

シンポジウムとしては「チームでめざす医療安全」、「地域連携システムと地域での診療情報の共有」、「地域医療連携室のネットワーク」、「がん診療におけるチーム医療」、「救急医療におけるチーム医療」、「医療マネジメントと物流管理」、「脳卒中におけるクリティカルパス」、「医療連携の人材育成と評価」がおこなわれました。

学術集会2日目は、特別講演2 伊藤雅治先生「医療提供体制の変遷とこれから」、特別講演3 新村和哉先生「医療提供体制の今後の方向」、教育講演4 石垣靖子先生「医療における受け手と担い手との“共同行為”が成り立つために」、特別シンポジウムとして「医療大乱を考えるー医療マネジメントの可能性からの模索」、フリートークセッション「医師事務作業補助者の現状とこれから」、シンポジウムとしては「新人看護師の卒後臨床研修の充実に向けて」、「医療コンフリクト・マネジメントとADR」、「クライシスマネジメント」、「チームでめざす口腔ケア」、「緩和・在宅のチーム医療」、「チーム医療とITー電子カルテは本当に便利なの?」、パネルディスカッション「つなげようー栄養管理、地域医療をかたちにしよう」がおこなわれました。

午後からA会場にて行われた市民公開講座2企画と市民公開フォーラムでは、多くの市民の方々からご参加いただきました。



特別講演 会場風景